

2022年

# 安全報告書



わたらせ溪谷鐵道株式会社

## 1. お客様をはじめ、地域の皆様へ

日頃からわたらせ渓谷鐵道をご利用くださり、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症は、依然として全国的な感染拡大を繰り返し、地域鐵道の経営は厳しさを増しております。

わたらせ渓谷鐵道においても、年内3度の新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、大幅な減収に見舞われました。

このような状況の中、当社は、公共交通事業者としての責務を果たすため、業種別ガイドラインに即した車内や駅等の衛生対策、抗菌・抗ウイルス対策及び、社員のワクチン接種推進等の新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、鐵道の運行継続に努めてまいりました。

また、安全対策についても、老朽化の目立つ車両及び線路設備・施設の維持管理に意を払い、日常の点検を着実にを行うとともに安全管理に万全を期しております。また、社内で年3回の事故防止検討会及び2ヶ月毎に管理職会議を開催し、安全の再確認、事故事例の研究、車両故障や機器の取扱い等について意見交換や研修を行っております。

さらに、設備投資につきましては、一層の安全運行の確保のため、国の補助制度の活用と沿線自治体の支援により、マクラギのPC化を含むマクラギ更新、レールの重軌条化等集中的な軌道整備を行うとともに、自動閉そく装置の更新、列車無線のデジタル化など、軌道、信号保安設備等の保守管理体制を強化してまいりました。

今後も、お客様に安心してご利用していただけるよう、経営トップを中心に社員一人一人が力を合わせ、それぞれの責務を認識し、事故防止活動に取り組むとともに、公共交通機関としての使命を果たしてまいりますので、引き続き皆様のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

この安全報告書は、鐵道事業法第19条の4に則り、輸送の安全確保のための取組等を広くご理解いただくために公表するものです。皆さまに本報告書をご高覧いただき、当社の安全の向上のため、忌憚のないご意見ご感想をお聞かせくださいますよう、よろしく願い申し上げます。

わたらせ渓谷鐵道株式会社  
代表取締役社長 品川 知一

## 2. 安全に関する基本方針

### (1) 基本方針

輸送の安全確保を図ることは、鐵道事業に携わる当社にとって重要な使命であり、会社経営の原点でもあります。この認識のもとに当社は、「安全で安心した輸送」を最重点項目とし、法令遵守と、危機管理体制を強化し、更なる安全性の向上を図るとともに、「連携と実績で果たす安全安定輸送」を事故防止活動のスローガンに、社長以下全社員で取り組んでまいります。

(2) 安全目標

列車事故など大きな事故の絶滅

(3) 重点実施項目

- ・事故防止管理体制の確立
- ・責任ある作業体制の強化
- ・計画的教育訓練の充実
- ・車両、設備の故障防止
- ・自主的な事故防止活動の育成努力

◆ 安全管理体制

安全管理体制については、社長の強力なリーダーシップのもと、機動性のある安全管理体制の確立を目指し、現場の情報を把握し、現場に対しフィードバックする体制を構築するため、安全統括管理者を軸とし各課長、運転管理者、施設管理者、車両管理者及び乗務員指導管理者が中心となり、事故防止活動の具体的な実施計画を立て、その実績状況を点検しながら推進し、定期的開催する事故防止検討会議で問題を確認することにより、社員が問題意識を共有できる体制を構築する。

◆ 事故防止管理体制の確立

各管理者がリーダーシップを発揮し、担当者の責任分担を明確にしたうえで事故防止活動の具体的な実施計画を立て、その状況を点検しながら推進していく体制を確立する。

◆ 車両、設備の故障防止

使用状態に応じた保守管理体制の強化を図るとともに、更新、修繕、重要部品の計画的取替を推進し、信頼性の向上を図る。

◆ 自主的な事故防止活動の推進

春・秋の全国交通安全運動、夏季・年末年始の輸送等に関する安全総点検にあわせ、また、必要な機会をとらえて事故防止検討会を開催し、安全の再確認、事故事例の研究、車両故障や機器の取扱等について意見交換や研修を行い、自主的な事故防止活動を積極的に推進します。

<事故防止検討会>



### 3. 輸送の安全を確保するための取り組み

安全対策については、一致協力して全力で輸送の安全確保に努めることとし、このため社内の安全・危機管理体制の強化や安全指導、安全教育を徹底し、さらなる安全性の向上を図ってまいりました。2022年度は請負業者への分岐器一般検査の勉強会を実施し、また、群馬県警察テロ対策協議会において、本県も「G7広島サミット等」が開催されることからテロに対する危機管理の確認を行いました。

#### <分岐器一般検査勉強会>



### 4. 新型コロナウイルス感染防止対策

国の補助により車内の抗菌・抗ウイルスコートを施工し、一層の感染症予防対策に努めてまいりました。駅においても、空間除菌・抗ウイルス装置を待合室及び各事務室等に設置し、定期的な待合室等のアルコール消毒、アルコール消毒液の設置、出・改札窓口に飛沫防止ビニールカーテンの設置、金銭授受の際はコイントレーを使用し感染症防止を行っています。また、列車内においても換気装置の使用や乗務員の窓開けによる車内換気を行うとともに、折り返し時につり革、手すり等のアルコール消毒を行っています。

社員においては、マスクの着用、手洗いうがいの徹底、アルコールによる手指消毒、出社時の体温測定、体調確認等徹底した感染防止対策に努め、安心安全な運行、乗務に努めています。

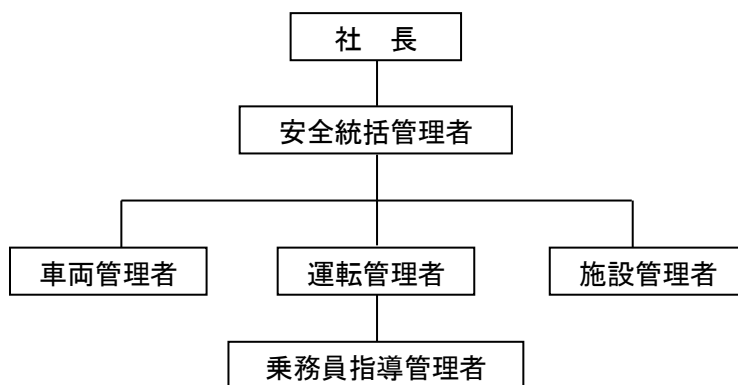
#### <車内抗菌・抗ウイルスコート>



## 5. 当社の安全管理体制

安全管理規程を制定して、社長をトップとした安全組織を構築し、各責任者の責務を明確にしています。

代表取締役社長	輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う。
安全統括管理者	輸送の安全の確保に関する業務を統括する。
運転管理者	運転に関する事項を統括する。
施設管理者	軌道・施設に関する事項を統括する。
車両管理者	車両に関する事項を統括する。
乗務員指導管理者	乗務員の資質の保持に関する事項を管理する。



## 6. 運転事故・輸送障害の発生状況

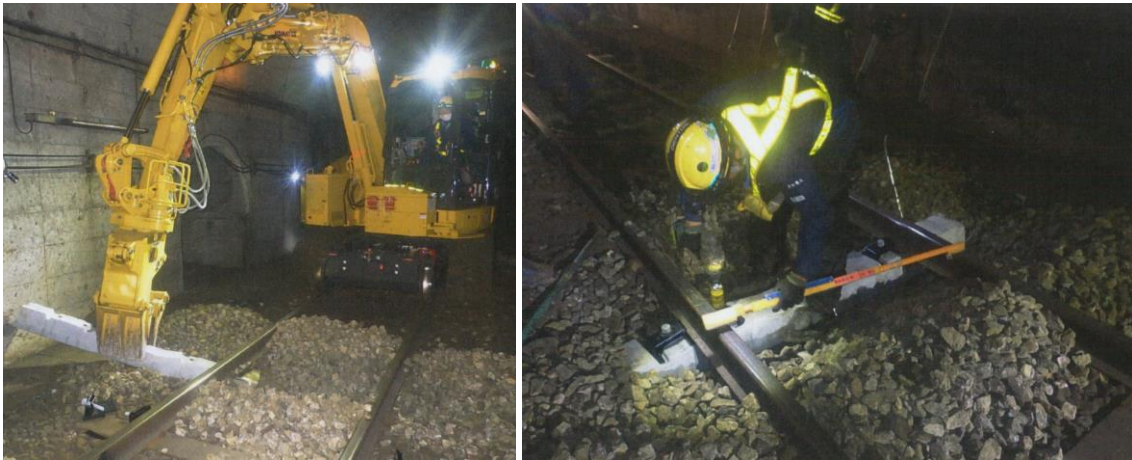
年度	運 転 事 故	輸送障害 (列車が30分以上遅れたもの)	
	衝突・脱線・踏切事故	設備・車両等の故障	雨などの自然災害
2018	0	4	6
2019	0	0	11
2020	0	5	5
2021	0	0	4
2022	0	3	13

2022年度の運転事故及び輸送障害の発生状況について、前年に比べ輸送障害の発生件数は16件と大幅に増加し、その要因は自然災害のものが多く特に倒木による輸送障害は全体の約4割発生しました。そのため倒木の恐れのある箇所を調査し伐採を実施しました。また、2023年度も計画的に伐採を実施し、引き続き設備や車両の点検整備等をより確実にを行い、輸送障害の減少に努めてまいります。

## 7. 安全対策実施状況

項 目	施 行 箇 所
<b>【線路施設】</b> レールの重軌条化 線路設備 〃 〃	大間々・上神梅間50N化(200m) PCマクラギ交換 1,879本 並マクラギ交換 740本 道床交換 大間々・上神梅間 外1箇所
<b>【車両設備】</b> 列車無線設備 車両定期検査	デジタル列車無線 WKT形 2両
<b>【保安通信設備】</b> 通信ケーブル更新	原向・足尾間(3,982m)

### <PCマクラギ交換>



## 8. 安全報告書へのご意見に対する連絡先

安全報告書へのご意見、ご感想をお寄せください。

群馬県みどり市大間々町大間々1603-1

わたらせ渓谷鐵道株式会社

TEL:0277-73-2110/FAX:0277-73-3121

URL <http://www.watetsu.com>/E-mail: [watetsu@sunfield.ne.jp](mailto:watetsu@sunfield.ne.jp)